

工学部研究資料館の震災後の報告

○中村秀二，倉田 大，白川武敏，清水久雄，平田正昭，廣田将輝

技術部 機械加工グループ

1 はじめに

工学部研究資料館の建物（明治 41 年）と館内の工作機械 11 台は，国指定重要文化財の指定（平成 6 年）を受けている．また，本館と新たに工作機械 2 台を加えた 13 台の工作機械は，一般社団法人 日本機械学会より機械遺産の認定（平成 19 年）もを受けている貴重な歴史的文化財である．平成 28 年熊本地震による震災後の工学部研究資料館について報告する．

2 熊本地震の被害について

平成 28 年熊本地震は，4 月 14 日 21 時 26 分に熊本県熊本地方の深さ約 10km でマグニチュード 6.5 の地震と 4 月 16 日 1 時 25 分に同地方の深さ約 10km でマグニチュード 7.3 の地震が発生した．これらの地震により最大震度 7 を 2 回観測し，大きな被害をもたらした．（気象庁 地震調査委員会 5 月 13 日発表）

本学には国指定重要文化財である五高記念館，化学実験場，工学部研究資料館などがあり，その多くが被災した．工学部研究資料館の被災状況は，建物倒壊はのがれたが，外壁の亀裂とレンガのずれが複数発生しており，柱のずれや内壁の崩落もある．展示物は，転倒したもの，展示ケースが割れたもの，窓ガラスの割れなどが複数ある．しかし，幸いにして館内の工作機械（13 台）の破損などの被害はない．



震災後の建物外観（北東側）



外壁の亀裂（東側）



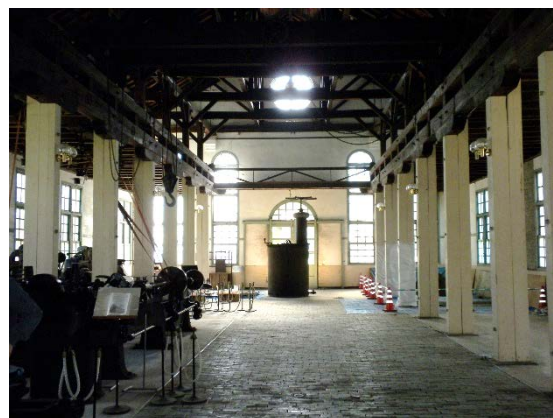
内壁落下（1 階北側）



内壁落下（1 階南側）



工作機械群（1階北側）



フロア全体（1階）

3 おわりに

現在、工学部研究資料館の周辺は、建物倒壊の恐れのため、立入禁止となっている。修復には文化庁から委託を受けた文化財建造物保存技術協会の専門のスタッフが携わり、本格的な調査および改修工事が進められている。修復工事では館内の展示物の多くは、建物修復のために一時的に他の場所に移設され、建物修復後に元の場所に移されることになっている。修復作業の終了までには約3年を見込んでいる。

最後に、この歴史的な建造物と産業の原点と言える重要文化財工作機械が元の状態になることを切に願い、今後の文化財保護のための維持管理に努めたい。

※工学部研究資料館に関すること.	建築学科 伊東龍一 館長	Tel 096-342-3554
※工作機械および動態保存に関すること.	工学部 技術部 中村秀二	Tel 096-342-3779
※工学部研究資料館の公開に関すること.	自然科学系事務課 総務担当	Tel 096-342-3513